衆議院予算委員会で質疑

当会では、川内博史議員(民主党)のレクチャーという方法で、厚生労働省と毎月一回のペースで、戦没者の扱いについての意見交換を行なってきましたが、その内容に基づいて、川内議員が、衆議院予算委員会において質問に立ちました。

その議事録が、当会にまいりましたので報告いたします。

○川内分科員

ぜひ大臣、今年すぐやって下さいとか、そんなこと私は申し上げる気はございません。とにかく、厚生労働省として、国として、沈んでいった子供たちの、将来ある子供たちの魂を、出来れば大臣が大臣のうちに慰めていただくのが一番供養になるんじゃないかということを申し上げておきたいというふうに思います。

それでは、次の遺骨収集の事業について聞かせていただきたいと思います。さきの大戦で戦火に散った方々の遺骨収集事業についてお伺いさせていただきます。

まず、米国が、戦闘中行方不明者というそうですけれども、この戦没者の捜索、遺骨収集にどれくらいの予算をかけているか、厚生労働省さん、ご存知でしょうか。参考人の方にご説明をいただきたいと思います。

○大槻政府参考人

お答え申し上げます。

米国におきます戦闘中行方不明者あるいは、戦没者の捜索あるいは遺骨収集に係る期間といたしまして、米国の国防総省捕虜・行方不明者人員調査部という組織があると承知しております。しかしながら、最近における正確な予算の数値等につきましては、把握しておりませんので、答えは控えさせていただきたいと思います。

○川内分科員

私が頂いたお調べをさせていただいた資料によりますと、遺骨収集、もちろん先に捜索があるわけですが、捜索と御遺骨の収集に年間四十二億円、さらに身元の確認に二十二億円、合計六十四億円をかけているというふうに聞いております。これは私が調べることですから、正しいかどうかは、もしよろしかったら後で御精査をいただきたいんですけれども。一方、六十四億円に対して、我が国の遺骨収集並びに身元の確認に国としてどのくらいの予算をかけていらっしゃるか、内訳を含めてご説明いただきたいというふうに思います。

○大槻政府参考人

平成十七年度の予算案におきましては、遺骨収集事業につきまして年間四億八千万円、遺骨伝達及び、DNA鑑定経費につきまして五千四百万円を計上しているところでございます。

○川内分科員

大体六十四億円に対して、今のご説明ですと四億八千万円と五千四百万で五億五千万ぐらいということで、大変な開きがあるわけでございます。もちろん、アメリカはベトナム戦争やあるいは朝鮮戦争などもされていらっしゃいますから、そのときの行方不明者の捜索などもあるわけで、一概に比べることは出来ないというふうにも思いますが、しかし、戦場で亡くなられた方々がお家に帰りたいという気持ちは、これはどんな国でも一緒だというふうに思うんです。

○尾辻国務大臣

それぞれの国の事情もあるとは思います。特にアメリカの場合は、軍が中心となって遺骨収集はしておるというふうに聞きますから、いわば軍の予算の中でやっている、それと、日本みたいにまさにボランティアで遺骨収集をやってきた国との差というのは、当然予算額の差について言えばそういうことでありますけれども、この前も申し上げましたけれども、戦後六十年もたってまだ遺骨収集をやっているというのは悲しい話でありますし、やはりもっと今まで国としてやるべきことがあったのではないかという思いは率直にいたしております。

○川内分科員

沖縄県における戦没者の遺骨収集について、日本国内で発見される御遺骨というのは、遺骨とは言いながら、実はまだ墓地埋葬法上は遺体並びに死体という扱いで、火葬し納骨をしなければならないというものでありますが、つい最近まで、沖縄で発見された戦没者の御遺骨について、ある種の法令にのっとらない取り扱いが行われてきていたのではないかということを私は指摘させていただいたのですけれども、大臣、今、局長さんが、丁重に取り扱いをさせていただいているというふうに御答弁をされたのですが、実は、今日私が持ってまいりました写真は、沖縄で発見された戦没者のご遺骨が、摩文仁の平和の礎がありますけれども、その公園の一角に財団法人沖縄県戦没者慰霊奉賛会という建物が、これは平和の礎が非常に立派に美しくつくられているんですが、奉賛会のこの建物は、私、この前、館長さんにもお会いして来ましたが、もう古い建物で、古くなっておりまして、その古くなった建物の裏側の小屋みたいなところに、こうして見つかったお骨が一緒くたにされて、白い袋に入れられてコンクリートの上に置かれているという、今、これは一時的ではあってもそういう状況なんですね。

事務方の皆さんはこれを丁寧な取り扱いだとおっしゃるかもしれませんが、私としても丁寧な取り扱いとは思いません。

し、また、大臣、もしかしたらご存知かも知れませんがこれは、ペリリュー島で見つかった戦没者の御遺骨を一回現地で火葬するわけでございます。(写真を示す)そのときに、こういう形でむき出しになっていまして、これはどうせ焼くんだから一緒じゃないかと言われれば、もしかしたら一緒なのかも知れませんが、これはちょっとわたしは、この国を作ってきていただいた、その礎になった方々のお弔いの仕方としては余りにも悲しい方法ではないかというふうに思っております。

ちょっと気持ちが高ぶってしまって原稿を読み上げられないのですけれども、私は、大臣が大臣の間に、この戦没者の遺骨収集事業というものを、先ほどもしっかりやるというふうにおっしゃられたわけでありますが、もう一度一つ一つの事業を見直していただいて、何百万という方たちがお亡くなりになり、まだ政府の統計でも百万人以上の方が帰ってきていないという状況を、今年、戦後六十年の節目でありますから、少なくとも、この六十年の節目に当たって見直す。DNA鑑定が出来るものはDNA鑑定をし、ご遺族に返す。これは一部はもう既に行われておりますが、出来るものはすべてやるというような形。

そしてまた、身元不明の皆さんは、身元不明の御遺骨としてお一人お一人墓碑銘を建ててお墓に葬る。千鳥ヶ淵も平和の礎も、お墓ではなく、法令上は公園という扱いになっておりますので、そういう我が国の先輩方に対しての、私たちが、今を生きる者の私たちの接し方というものを今年しっかり考え直すということのご決意をもう一度大臣にいただいて、終わらせていただきたいと思います。

○尾辻国務大臣

大変気持ちのこもったお話をいただきまして、一言感謝を申し上げます。

御遺骨の扱いというのも、本当に少しも尊厳を損なうことのないようにしなきゃいかぬというふうに思っておりますので、そうしたことも、また、沖縄の具体的なお話もありましたから、早速に調べて、決してそういうことのないようなことにすることはお約束を申し上げたいと思います。

ただ、一つだけ。実は、もう私も何回も何回も遺骨収集も行ってまいりまして、今写真でお見せいただいた御遺骨を焼く場面というのは、自分自身がやってきました。決して言い訳ではないのですが、一回に何百柱かの御遺骨を収骨して、一遍に焼かないと日本に持って帰れない。ではどうやって焼くかというと、ああいう焼き方しかなかったわけであります。もう泣きながらああやって焼いていましたが、どうぞ、それはやむを得なかったというところだけは改めてご理解いただいておきたいと思います。

いろいろ戦後処理、やらにゃならぬことがありますが、遺骨収集もしっかりと、そういつまでもやるべき話じゃありませんから、仕上げをしたいというふうに思っております。

○川内分科員

ありがとうございます。

平成18年度　厚生労働省概算要求

平成18年度の戦没者関係予算の概算要求が表示されました。

それによりますと、海外に残された戦没者の遺体収容について、来年度から専門チームを作り、調査収集を行うために、「海外未送還遺骨の集中的な情報収集」として(29百万円)が新規に計上されております。

全体的な予算から見ると僅かな金額ではありますが、新規に計上させるまでに至ったことは、運動の成果であると言えるでしょう。

当会は、インターネットを通して世界各地から、戦没者の遺品や、放置された戦没者の遺体に関する情報が寄せられておりますので、海外に直接赴き、正確な情報を把握し、戦没者を収容し、政府が設置したDNA鑑定検討会の答申に基づき、戦没者の遺体を遺族の元へ帰したいと思っております。

単位：百万円

	17年度予算	18年度要求
	58,588	54,024
1　援護年金	52,051	47,693
受給人員	27,706人	25,529人
・恩給関連事項		
2　戦傷病者等の妻に対する特別給付金の継続支給	0	36
	(支給事務に要する経費)	
・対象見込件数	41,000件	
3　戦没者の遺骨収集等の推進	888	881
(1)　遺骨収集等	533	536
①　遺骨収集	207	225
	(8地域)	(9地域)
(新規) 海外未送還遺骨の集中的な情報収集	0	29
②　慰霊巡拝	126	128
	(15地域)	(15地域)
③　慰霊碑の補修等	108	91
・補修工事	(2ヵ所)	(4ヵ所)
・補修調査	(2ヵ所)	(2ヵ所)
・戦没者慰霊碑維持管理	(15ヵ所)	(15ヵ所)
・小規模慰霊碑の建立	(3ヵ所)	(3ヵ所)
・海外民間建立慰霊碑の調査	(12地域)	(2地域)
(2)　戦没者遺児による慰霊友好親善事業	323	323
	(14地域952人)	(14地域952人)
(うち、民間建立慰霊碑等整備整理事業	19	19
4　戦中・戦後の労苦継承	1,181	785
(1)　昭和館の運営費	574	578
(2)　戦傷病者等の労苦継承事業の実施	595	194
・戦傷病者史料館（仮称）の運営費	163	194
※設置費は前年度限りの経費(17年度：432百万円)		
5　中国残留邦人等の支援	1,562	1,598
(1)　中国帰国者等受入施設の再編・整備	744	776
定着促進センターの規模を縮小する		
自立研修センターを3ヵ所閉所する(12ヵ所→9ヵ所)		
支援・交流センターを2ヵ所新設する(3ヵ所→5ヵ所)		
(2)　定着自立対策の充実	82	125
①　自立支援通訳の派遣対象の拡大	41	46
・派遣先に職業能力開発校等を加える		
②　支援・交流センター事業の拡充	41	79
・高齢者帰国者向け日本語教室の拡充		
・日本語通信教育講師の増員		
・交流事業コーディネーターの増員		

遺品返還状況

調査中の遺留品

遺留品	旧所有者	取得地出身地
写　真	高畑　芳男	硫黄島
通　帳	高畑　弘	硫黄島
日章旗	松村　一男	
手　帳	安慶名孝一	沖縄
写　真	太田　榮昇	
日章旗	園田　少将	
日章旗	山田　正雄	
日章旗	木村　一男	アトル諸島
日章旗	浅井　竹三	
日章旗	苗加　源治	北海道
日章旗	西尾　修二	
日章旗	伊藤　勇	
日章旗	市橋　少尉	
日章旗	岡田　康男	
日章旗	浅野正太郎	

遺留品返還一覧表

平成17年3月～平成17年6月

遺留品	旧所有者	依　頼　者	返　還　日
日　章　旗	藤野　庄二	Roy Carter（イギリス）	平成17年3月4日
日　章　旗	坂野　隆一	Carol J Nicchter（アメリカ）	平成17年3月7日
写　　真	赤坂　耕一	Carol J Nicchter（アメリカ）	平成17年3月7日
日　章　旗	齋木松太郎	Howard Orechtel（アメリカ）	平成17年3月17日
日　章　旗	高橋　一男	ストルツ　知子（アメリカ）	平成17年3月20日
日　章　旗	浦　　等	Bettie Kirby Hansen（アメリカ）	平成17年3月
日　章　旗	齋藤　長次	Carl Bellon（アメリカ）	平成17年3月
日　章　旗	永井　源市	Ray E Fahnestock(アメリカ)	平成17年4月25日
メモ紙と紙幣	安橋　政雄	Dwight J Liggett（アメリカ）	平成17年6月2日
メモ紙と紙幣	廣川　忠明	Dwight J Liggett（アメリカ）	平成17年6月2日
メモ紙と紙幣	柴田　恒作	Dwight J Liggett（アメリカ）	平成17年6月8日
ハ　ガ　キ	北島　一良	Martin C Connor（アメリカ）	平成17年6月17日
メモ紙と紙幣	立花　亮一	Dwight J Liggett（アメリカ）	平成17年6月17日